

Pas ā pas



10の夢がまだ
 10通りあるから捨てません
 生きていこうと
 働きたまも
 自分らしく
 生きていこうと
 必死になろうと
 女にさせんか？
 謹んでお話しします
 生きていこうと



♥夢を捨てずに生きようとする
 彼や彼女たちの話



名取 宏樹さん



小倉 彩さん



森崎 興蔵さん



河村 裕美さん

名取 宏樹さん (看護師・静岡市立静岡病院)



父親が消防士だったためか、小さい頃は消防士に憧れていました。しかし、中学の進路選択時に両親に相談したところ、消防士には看護師資格を持っていたほうが有利(救急隊として医師の指示を受けながら対処できる)とアドバイスを受け、看護専門学校に進学しました。

学校には女性が多く、最初は戸惑いましたが、実習が進むうちに、この仕事に魅力を感じ、もっともっと勉強してみたいと思うようになりました。専門学校時代には、人生で一番勉強をしたような気がします。とにかく看護師という夢がはっきりしてきたので、頑張ることができました。家族も、「自分のやりたいものをやればいい、応援するよ」とのことで、とても心強かったです。

現在はICU(集中治療室)勤務。ここは、生命の危機にさらされている患者さんの救急治療にあたるため、特に緊迫感がある部署です。

看護師の仕事は夜勤があるので、生活リズムが不規則になりがちです。自分自身はもう慣れましたが、家族には苦勞をかけているかもしれません。

仕事上で一番大切にしていることは、患者さ

それぞれの「看護観」を大切にしながら
人のいのちを支えていきたい

んとのコミュニケーションです。入院患者さんの多くは大きな不安を抱えているので、それを少しでも和らげることができるように、ちょっとした会話でも大事にしています。不安ということでは患者さんのご家族も同じなので、ご家族に対しても気を配っています。

そして患者さんから「ありがとう」という言葉をいただくのが嬉しくて、「この仕事をしていてよかった」と感じます。かけだしの頃は、ドクターや先輩看護師など多くの人に助けられましたが、今では後輩を指導する立場になりました。人それぞれの、どんな看護師になりたいかという「看護観」を尊重しつつ指導するようにしています。

まだ男性の看護師は多くはありませんが、一般の方が考える以上に男性が活躍できる職種ですから、もっと男性看護師が増えていくと嬉しいです。

Profile

1983年生まれ。妻と子ども4人の6人家族。子どもの頃はサッカーに打ち込んだ。休日は子どもと遊ぶなど、家族との時間を大切にしている。



小学校3年生のとき、父がコーチをしている女子のクラブでサッカーを始め、それ以来、中学校・高校・大学と続けてきました。女子サッカーはチーム自体が少ないので、試合も遠征することが多かったですね。

就職を考えるようになった時、やっぱりサッカーに関わる仕事ができれば良いと考えていたところ、エスパルスサッカースクールのコーチの募集があると知り、是非やってみたいと思い応募しました。

現在はサッカースクールのスタッフとして、毎日のスクールでの練習や幼稚園・保育園を対象としたスポーツ教室やサッカー教室などで、子どもたちの指導をしています。指導者としての知識・技術面や体力面でもまだまだ未熟な部分が多く、大変と覚めることもあります。毎日が学びの連続で楽しさややりがいを感じています。

女性のコーチは、ここでは私だけですが、あまり女性を意識することはなく、1人のコーチであることを意識して行動しています。女性とか男性とかは関係なく、きちんと伝える。ただし、その一方で、元気がない子や泣いている子などを

しっかりとケアするように心がけています。

一緒にいるだけでもすごく楽しいですが、子どもたちに「サッカーが楽しい」「頑張りたい」などと言ってもらえたときはほんとうに嬉しいです。サッカーを通して、人としても成長する手助けをしたいです。

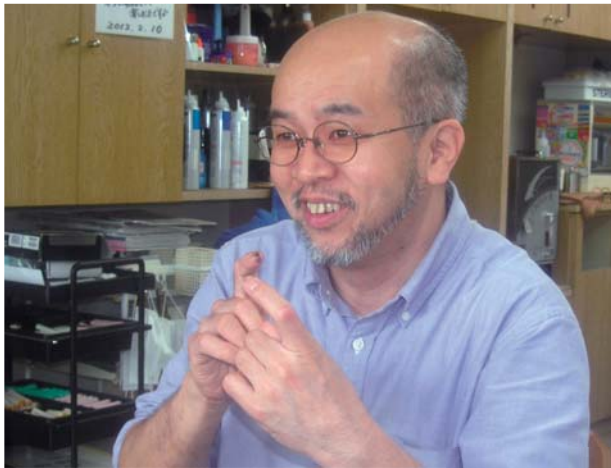
今、各会場の1クラスのなかに女子は1~2人くらいなので、もっと増えてくれたらいいなと思うのと同時に、自分が同じ女性として、お姉さんのような良き相談相手になってあげられればと思っています。

これまで、多くの出会いや周囲の支えがあってここまでサッカーを続けることができ、今の自分があります。ですから、今の中学生や高校生も、自分の好きなことや、やりたいことを一生懸命やる時間を大切にして欲しいですね。それから、人との出会いも、ぜひ大切にして欲しいです。

サッカーを通して成長の手助け
指導は真剣勝負
男も女もありません

Profile

1989年生まれ。夢はエスパルスに女子サッカーチームを作ること。休みの日は買物をしたり、友人と出かけたりしてリフレッシュする。



ろう学校高等部に進学するとき、両親の勧めで理容科を選択しました。理容師の資格を取った後、東京の理容室に就職。住み込み就労で厳しい門限があるなど、若かった自分にとっては、窮屈に感じられたため、1年半で辞めて、静岡に戻りました。

静岡では街中の理容室に13年間勤めました。最初の頃は、なかなか他の人と同じようには仕事ができず、先輩にフォローしてもらっていました。徐々に自分も慣れてきて、電話対応を先輩にお願いする代わりに、自分がアシスタントや下回りをする、というように、うまく協力をして仕事を進めることができるようになりました。

ただ、お客さまの中には、私が耳が聞こえないということを知って、あの人は嫌だと言われたこともありました。資格は持っているのに、そういう理由で評価されるのは辛かったです。

その後、自分の店を開くことができました。最初はなかなかお客さまが来ず、大丈夫かなと心配もしましたが、少しずつ来てくださるようになりました。

お客さんとのコミュニケーションには、書く、身振り、口話(口の動きを読んで話す)、ヘアカタログを見せる等、いろいろな方法があります。写真で、後ろや、横のスタイル、長めか短めかなどを確認しま

目は心の窓 「聴こえない」ハンデを乗り越えて 手話漫談にも挑戦しています

す。一度来たきりで来なくなる人もあれば、また来てくれる人もいます。再び来てくれるとほっとしますね。昔に比べると、少しずつですが、ろうあ者に対する理解が広まっているように感じます。

仕事のかたわら、静岡県聴覚障害者センターのホームページで、手話漫談の動画ブログ(<http://szdi-center.cocolog-nifty.com/blog/>)を公開しています。テーマは、家族のこと、友達のこと、趣味のことなど様々です。みんなが「そうそう!」と思うような生活のネタや、ろうあ者と健聴者の違いなども題材にしたりします。

ろうあ者は目を見て話をしますが、聞こえる人は目を見ないで話をすることに慣れています。喧嘩する時なども、嫌でも目を見て、きちんと話をするのが大切です。そうすると、表情から相手の気持ちをつかむことができます。謝る時も、直接会って伝えることで、相手側もこちらの申し訳ないという表情を見ることができません。目を見て話すということが、人と接する上で最も大事なことだと思います。

Profile

1962年生まれ。17年前から葵区安東に店舗を構える。趣味はバイクのツーリング。県中部を中心に、県内各地のラーメンの名店を巡る。



子宮頸がんが見つかったのは、結婚・入籍してからわずか1週間後。がんの治療のために子どもが産めなくなることに對して、私は離婚を考えましたが、夫は冷静に「一緒に生きていこう」と言ってくれたので、2人で病気を乗り越えようと思いました。手術でがんを取り除きましたが、子宮・卵巣を摘出したことで、様々な後遺症が起こりました。

後遺症のひとつに、排尿・排便障害があります。排尿にかかわる神経を手術で切ってしまうために、トイレに行きたいという感覚がありません。そのため時間をみてトイレに行っていますが、仕事をしながらだと、とても大変です。

後遺症の悩みを抱える中で、婦人科の病気を抱える患者同士の語り合いの場があることを知り、参加してみました。そこでは、癒されましたが、場所が東京のため頻りに通うことができません。そこで、地元の静岡に同じ悩みを持つ人がいるのではないかという思いから、静岡でNPOを立ち上げました。それが現在の「オレンジティ」です。名前は、静岡県の特産品の「みかん」と「お茶」から名付けました。

今では、静岡だけでなく全国各地でも活動しています。また、活動にあたっては、民間企業や自治体と協力して活動するなど県職員として培った広報のスキルを最大限に活用しています。

一人ひとりの健康は「社会に対する責任」
地元静岡で自助グループを立ち上げて

中学生や高校生を対象にした講演も行っています。講演では、人生のイベントを年表にした「未来スケジュール」を使い、これから人生の舞台に出ていく子どもたちに私のこれまでの人生と比較しながら説明しています。

また、病気になって初めて、「健康」は自分だけの責任ではなく、社会に対する責任だと気が付きました。病気が原因で自分自身の夢を諦めなければならない場合も起こりますし、家族や職場などにも大きな影響を与えてしまうこともあるからです。

子宮頸がんの検診は20歳から始まります。もし私のように30代初めに子宮頸がんになったら、残りの人生50年を後遺症と付き合っていかなければなりません。そうした話をしながら、検診やワクチン接種の重要性を伝えています。中学生や高校生のみなさんには、大人になった時の自分の健康の守り方に責任・関心をもって欲しいです。

Profile

1967年生まれ。本業は静岡県職員。休日の多くはNPOの活動にあてる。NPO活動を行う中で、印象深かったことは、昔からファンだった歌手と一緒にイベントができたこと。

オレンジティ ホームページ <http://o-tea.org/>

◆取材を終えて……編集委員が得たものは？

全力投球で生きることから 生きがい生まれる エネルギーがもらえる 素敵な人たち

A：みんな素敵だったな……っていうのが素直な感想。話を聞いていて楽しかったし、エネルギーをもらってすごくいい気持ちになれた。

B：プロ意識が高いと思った。それと、プロとしてのプライドを感じた。あと、自分が取材を担当した2人の方に共通していたのが、コミュニケーションを大事にしていたこと。

C：みんな前向きで、エネルギッシュ。河村さんは、ガンという苦難を乗り越えて、きっと前よりも生きいきとしているんじゃないかと思う。講演会にも行ってみたい。健康のためには、予防や早期発見が大事だと思って、早速検診に行きました。

B：名取さんの取材で病院に行ったとき、患者の方と名取さんの会話を見ていて、信頼関係ができていたと思った。

D：看護師の仕事って、力仕事も多いだろうし、本来男性は向いていると思う。

C：日本でももっと男性看護師が増えればいいと思う。看護学校に行っている人に聞くと、やっぱり男性はまだ少ないようだけど。

D：入院患者には男性も女性もいるんだから、男性に看護してもらいたいという人もいれば、女性に看護してもらいたいという人もいると思う。半分ずつくらいが理想じゃないのかな。

B：森崎さんは表現力が素晴らしかった。手話通訳を介して取材したが、会話に引き込まれた。

皆、好きなことをしているというよりも、目の前にことに全力投球をした結果、好きになっているっていう感じ。

C：みんな生きがいを感じている。それが羨ましい。今、仕事で生きがいを感じている人はなかなかいないんじゃないかと思う。

D：それと、仕事に関して誇りを持っているという感じ

がする。小倉さんは、男性コーチの中にいる女性コーチだけど、自分だからできることがあると言っていたし。

A：一生懸命やった結果、人に喜ばれて、さらにそのことが、やりがいや誇りにつながっていると思う。

両親の影響も大きいと思った。親の働く姿が見えていると良いのかも。

C：家族とのコミュニケーションがうまく出来ていたことが、今の生きいきとした生き方につながっているのかもしれない。

D：みなさんからは、マイナスをプラスに変える力を感じる。

B：苦しいときや辛いときに支えてくれたり、応援してくれたりした人の存在も大きいと思う。

A：みんな人が好きなんだろうなっていう印象も受けた。

D：どんな人にもドラマやその人ならではの良さがある。今回の取材で、あらためてそのことが分かった。



一人ひとりの力を 十分に発揮できる組織を目指す

レ・サンク

平成23年度静岡市ワーク・ライフ・バランス推進事業所表彰において、特別賞を受賞したレ・サンク様にお話を伺いました。



(株)レ・サンク 代表取締役 田嶋 清子様

当社ではグラフィックデザインやWebデザイン、それからデジタルアーカイブに関する業務を行っています。女性の製作者集団として創業した経緯から、特に女性の活躍促進や雇用拡大に力を入れており、安定的な経営のためには、経営体制の強化やワーク・ライフ・バランスに関する取組が重要な課題だと認識していました。

ISO9001の取得

女性が働き続けられる環境を整備するための課題のひとつは、経営を安定的に継続して行うための経営体制の強化でした。そこで、ビジネスマネジメントシステムの構築に取り組み、平成17年には県内では業界初となるISO9001の認証を取得することができました。

これにより、業務プロセスが明確化・可視化されるとともに、計画的に業務の改善を行う仕組みが整いました。

長期休暇の取得推進

ワーク・ライフ・バランスに関する取組を行う前は、多くの同業種の会社と同じく恒常的に残業が発生しており、特に納期が近づいてくると、深夜までの残業や土日の出勤なども珍しくありませんでした。そのため女性社員は、出産を機に退職するか、仮に仕事を続けることができたとしても、家族に大きな負担をかけながら仕事を続けているという状況でした。

そこで、社員が計画的に長期休暇を取得できるようにするため、オリジナルカレンダーを作成しました。5月の連休、お盆休み、それに年末年始には、7~10日間程度の休みを設定し、その間は会社を完全に休業としています。会社独自で作成したカレンダーには、土日と同じように休業日を赤く表示しており、一目で休日であることが分かるようになっています。2012年の年間休日は土日祝日を含め126日あり、例年130日前後は休日を確保しています。



社内での打合せの様子

在宅勤務や有給休暇の柔軟な利用

遠方に住む社員には、在宅勤務を認めています。実際に、週の半分は会社に出勤し、もう半分は自宅での勤務とした例があります。

また、有給休暇については、15分単位での取得を認めており、子育て中の社員などに多く利用されています。

夕礼の実施、社員の資格取得支援

また、毎日、始業時の朝礼に加えて、終業時に夕礼を行っています。夕礼を行うことで、社員に終業時間を意識させることができます。また、夕礼では各社員がそれぞれの仕事の情報を共有するとともに、仕事の進捗状況を確認する場としても活用しています。どうしても社員ごとに仕事が集中する時期がありますが、お互いの業務の状況を確認し合うことで、余裕のある社員がその他の社員をサポートするようにしています。

また、社員の質の向上にも勤めています。社員の準デジタルアーキビスト資格取得に係る費用は、全て会社で負担しています。その結果、新入社員を除く全社員がこの資格を保有しています。

社内研修は毎月1回行うほか、定期的に外部講師による研修も行っています。また、県男女共同参画センターと交流があるため、男女共同参画に関する情報を積極的に収集し、社内で活用しています。

ほかにも、社員の誕生日のお祝いなど、社内コミュニケーションを活性化するよう心掛けています。

こういった取組みの結果、以前に比べて残業の時間は格段に減少しています。以前は毎日3時間以上残業していましたが、最近では1日あたりの残業時間は約30分となっています。この業界で、これだけ残業時間が少ないというのは、なかなか珍しいのではないかと思います。

ワーク・ライフ・バランスは掛け算

平成22年度には、女性のポジティブアクションやワーク・ライフ・バランスの取組みが評価され、静岡県男女共同参画社会づくり知事褒章を受章することができました。

ワーク・ライフ・バランスというものは、ワーク(仕事)とライフ(生活)の足し算のバランスをとればよい

というだけではなく、掛け算だと思っています。仕事と生活が両方充実することで、相乗効果によって、自分の人生の充実につながる、それが本当のワーク・ライフ・バランスなのではないでしょうか。

事業所の規模としては決して大きくはありませんが、一人ひとりの力を十分に発揮できる組織を目指して、更に取り組を進めていきたいと思っています。



株式会社 レ・サンク

事業内容: デザイン業

所在地: 静岡市葵区人宿町1-4-3

電話番号: 054(273)5500(代表)

従業員数: 12名(男性2名、女性10名)

ホームページ: <http://www.les5.co.jp>

勤めていて良かったと思える会社になりたい

食鮮館タイヨー

平成23年度静岡市ワーク・ライフ・バランス推進事業所表彰において、奨励賞を受賞した食鮮館タイヨー様にお話を伺いました。



WLB推進事業所表彰で送られた表彰楯

パート社員から正社員への登用を実施

平成23年に、パート社員から正社員に転換する制度を創設しました。正社員への転換を希望するパート社員に対して、登用試験を実施した上で、正社員に転換しています。平成23年は5名の方をパート社員から正社員に登用しました。

パート社員の勤務時間は、ショート(3.5時間)、ミドル(4.5~5.5時間)、ロング(6~7時間)の3区分から、それぞれのライフスタイルに合わせた働き方を選択することができます。また、子育てが一段落して勤務時間を長くしたいというような場合には、随時勤務区分を変更することが可能となっています。

休暇制度などを分かりやすく周知

育児休業や介護休業などの各種の休暇制度は、就業規則の中で定められていますが、日々の業務の中で、

じっくりと就業規則を見するという機会はなかなかありません。そこで、各種休暇制度の内容や、取得手続きの仕方をまとめた「制度利用の手引」を作成し、各店舗に配備しています。

この手引には、各種制度の説明や、申請のために必要な書類などが全て揃っており、この手引を見ればおおよそのことが分かるようになっており、いざという時に迷いがちな手続きもスムーズに行うことができます。



各種の休暇制度等がまとめられた「制度利用の手引」

連続した夏季休暇の取得

これも昨年度から始めた取組ですが、夏休みに連続3日間の休暇を取ることを義務付けました。今年はこれをさらに1日増やして、4日間としました。これまでこの業界では、続けて3~4日間職場を離れるということはかなり難しいものとされていましたが、思い切って取組を始めました。

連続した夏季休暇の取得を義務付けたことで、これまであまり考えていなかったことに目を向けることができました。今自分が行っている業務が本当に必要なものかどうか、あるいはもっと効率的に行うことができないうなど、今の業務自体を見直すきっかけとなりました。

相談窓口を設置して、働きやすい職場に

セクハラやパワハラの防止、出産・育児・介護、職場での悩みの際に、気軽に相談できる社内向け相談窓口を設置しています。平成24年9月からは、専用の電話番号を開設しました。

この相談電話の大きな特徴は、男性用と女性用で電話番号を分けていることです。特にセクハラなどの問題は、なかなか異性には相談しにくいものです。そこでこの相談では、それぞれ、同性の者が相談に応じる体制を整備しました。

また、相談電話の設置とあわせて、更に働きやすい職場づくりのために、今年から店長・バイヤー級の社員を対象として、セクハラ・パワハラ防止のための研修を実施する予定です。

許しません!
[パワハラ・セクハラ・いじめ]

通報:ホットライン

女性専用 054-XXXX-XXXX

男性専用 054-XXXX-XXXX

☆相談者のプライバシー保護の為に措置を適正に行います。
☆相談したこと、事実確認に協力した事を理由に不利益な取扱いとならない配慮をします。
☆必要に応じ、第三者を紹介させる場合もあります。

2012.9.01 開設

社員からの悩み相談の電話を開設

更なるワーク・ライフ・バランスの推進に向けて

残業を縮減するために、勤務状況を社員本人・店舗・そして本部で確認しています。単に「残業するな」と言っても、縮減されるものではありません。業務の見直しなどを進めながら、会社全員で残業を減らそうという風土作りを心がけています。

昔は、スーパーといえば、男性社員は眠るために家に

帰り、家事の一切を妻に任せるとというのが当たり前の世界でしたが、今は違います。当社では社員に対して、休日は家で子どもと遊びなさいと伝えています。しっかりとした家庭生活が土台にあつてこそ、きちんと仕事ができると思っています。

また、様々な制度は整えるだけでなく、実際に利用することができる環境でなければなりません。そのためには、各種制度の周知はもちろんですが、社員の意識改革を行う必要があるとも考えています。

ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組を始めたばかりですが、社員全員から、「ここに勤めていて良かった」と思われる会社であるために、今後も更なる取組を進めていきます。



日立店(清水区日立町)



庵原店(清水区庵原町)



横砂店(清水区横砂中町)



二の丸店(清水区二の丸町)

株式会社 食鮮館タイヨー

事業内容:小売業

所在地:静岡市葵区流通センター10-6

電話番号:054(262)5511(代表)

従業員数:980名

(男性160名、女性67名、パート・アルバイト753名)

ホームページ:

<http://www.syokusenkan-taiyo.co.jp>

静岡市女性会館は今年で20周年を迎えました

静岡市女性会館(アイセル21、葵生涯学習センターとの複合施設)は、市の男女共同参画社会づくりの推進拠点として、平成4年(1992年)6月17日に開館し、今年で開館20周年を迎えました。

平成19年度からは、民間団体が有する専門性やネットワークを活用するため、指定管理者制度を導入して運営しています。



女性会館開館20周年フォーラム

6月23日に、開館20周年記念フォーラムが開催されました。上野千鶴子さんによる「女が変われば、地域が変わる」と題した基調講演の後、女性会館の松下光恵館長のコーディネートのもと、上野さん、桜井陽子さん(全国女性会館協議会理事長)、居城舜子さん(NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか代表理事)により、「いま、女性会館が取り組むべきこと」というテーマでパネルディスカッションが行われました。



女性会館の第2期指定管理者が決定しました。

静岡市では、男女共同参画を推進する本市唯一の拠点施設である女性会館の管理運営業務において、団体等のノウハウや企画力を十分に発揮していただくことにより、施設利用者の利便性や満足度の向上を図るとともに、市民団体等を育成し、男女共同参画施策をより一層推進することを目的として、第2期目の指定管理者を募集しました。

その結果、平成24年4月1日から業務を担っていただく指定管理者を次のとおり決定しました。

名称:特定非営利活動法人 男女共同参画フォーラムしずおか

指定期間:平成24年4月1日から5年間

選定の経緯などの詳細は、静岡市男女共同参画課のホームページをご覧ください。

静岡市男女共同参画課

検索

http://www.city.shizuoka.jp/deps/danjo/shiteikanri_kettei.html

パザパ19号のご意見・ご感想をお寄せください。

〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1 静岡市生活文化局市民生活部男女共同参画課

FAX:054-221-1782

E-mail:sankaku@city.shizuoka.lg.jp